本彫塑会の意見書」という記事が載っている。東京美術学校彫刻科卒業生の団体である同会が第一回文展に於ける審査の公平を要望して文相牧野伸顕に意見書を提出（七月十五日）したという内容で、提出者に本山白雲、渡辺長男、細谷三郎、小倉右一郎、藤井浩祐、朝倉文夫、吉田政一、池田勇八、中村武平（「以下略す」とある。）の名が掲げられている。同会の活動については不明だが、同会はあるいは彫塑同窓会の後身かとも思われる。

⑤ チャカホイ節の流行

チャカホイ節の元祖は明治三十六年西洋画撰科卒業の渡辺亮輔であったと辻永が書いているが（128頁）、特に定まった歌詞もないこの七七七五調の唄は生徒に気に入られ、よく唄われるようになったらしい。大正元年九月十九～三十日の『毎日新聞』には明治三十八年入学の灰汁生なる人の「美術学校学生々活」が連載されており、その中に流行ぶりが次のように記されている。

△デカンショが一高を標榜する如く、チヤカホイ節は美術學校の學生々活一班を窺ふに尤も適當な歌で有る、彼は豪放此は洒落、兩者の對象（ママ）は明に兩校生徒の氣風の別るゝ所、敢てチヤカホイ節なる一項を設けた所以で有る、一躰チヤカホイ節は何處の國の產で、又誰によつて歌ひ出されて來たもので有るか、今定かに知る由も無い、何でも數年前日光へ旅行した時に、誰いふと無く歌ひ出したのが起原で有つたらうと覺える「この頃には起原も曖昧になつていたようだ。―編者註」、さうして其頃流行（はや）つた所の、有明節だの仙臺節だの乃至相馬節などを捨てゝ、皆が皆無意識に此歌を唄ひ初め、今では近所の藥學校を初め、遠く一高、赤門邊までチヤカホイ化されて居ると云ふ勢、

△由來美術學校には一定の校歌と云ふものが無い、從つて仲間の口にのぼるものは、他校の校歌か、夫とも其時々の流行唄（はやりうた）か、精々琵琶歌位に過ぎ無（なか）つた、中には長唄や清元に浮身をやつして居る通人も有つたが、未だ曾て美術學校特殊の天地を歌つたものとては遺憾ながら無かつたので、偶々チヤカホイ節の一部に歌はるゝや、我等の生活を現はすものは正に是れと云ふ風で、恰も闇夜に燈火（ともしび）を認めた如く、全校擧げて此歌に同化したのである、されば日頃より反目嫉視せる高襟（はいから）派も、蠻殼（ばんから）派も、一度チヤカホイの聲を聞く時は、議論も喧嘩も何處へやら、忽ち渾然と融和して、齊しく美の神の出現を仰ぐので有る

△節は必ずしも面白い節調で有るとは云ひ得ない、然乍ら其澁味の有る、暢然（のんびり）して、浮世を茶化したやうな所が、譯も無く美術學校の嗜好に投じたので有る事は今更云ふ迄も無い、今口を吐いて出る二三の歌を御披露申さう、好んで歌はるる文句は「何をくよ〳〵川端柳、水の流れを見て暮す」と言ふ誰でも知つて居る唄だが、

チヤカホイ所か今日此頃は、人の知らない苦勞する
此は試驗前だの製作前の苦しみを現はしたもので
チヤカホイ〳〵で半年やくらす、後の半年や寢て暮す

と云ふデカンショの替歌も有る、其旅行中次の宿屋へ着いた時は、先ず入口に立つて聲を揃へて

昨夕（ゆうべ）の宿屋は不都合な宿屋、呼んで出て來ず飯まづい

等と出鱈目を吹いて、暗に虐待防止策を施して置く元氣者も有る、此外に猶、

繪かき〳〵と輕蔑するな、是でもヴイナス（美の神）の寵兒（たまひもの）

何だ此野郎柳の毛虫、拂ひ落せば又すがる

等が有る、高い聲では云はれないが、何をくよ〳〵の替唄に「何をくよ〳〵川端玉章、金のたまるを見て暮す」と云ふのが有る、作者の名はつい逸したが、流石に傍若無人の連中も、此ばかりは敬意を拂つて胡魔化して歌つてるさうな、可愛い所は斯麼（こんな）所に有るんです。

⑥ 依嘱製作凱旋門

これについては「東京美術学校近事」（316頁）にも記事があるが、『美術新報』第四巻第十九号（明治三十八年十二月二十日）は一層詳しくこれを伝えている。

○上野の凱旋門　上野黒門口凱旋門は十一月二十二日畫代を組立て十二月十三日建物及裝飾の全部を竣成し、夫より三日間にて上部の置物勝利神獅子及陸海軍人立像を製作し、十五日を以て悉皆工を終たるを以て十七日午前十時より落成除幕式を擧行したるが、右凱旋門は高五十尺幅四十八尺奥行十四尺道高き幅共二十四尺にして、全體の設計は美術學校教授工學士古宇田實氏の擔當に成り、上部置物中央軍神と馬四頭車臺、金鵄、四隅獅子等は美術學校の塑造科にて原型を造り、内部の天井裝飾平和の女神は美術學校教授岡田三郎助氏主任として小林萬吾氏之を助け、正面左右の陸海軍人は新海竹太郎氏の原型によるものにして、全體クラシック式によれりと。

○上野凱旋門の天井裝飾　美術學校洋畫科の擔任にて、教授岡田三郎助氏の立案下繪に成り、小林萬吾氏外學生十七人晝夜兼行にて描き上げ金鵄を置きしものなるが幅二間長六間の天井に布代繪具代にて研究的に引受けしものなりといふ。其圖柄は左右前後に女神を現はせしものにて、左方の中央には地球を掌上に載せたる名譽の女神を畫き兩側に忠實親和の二神を現はし、忠實の神には犬を添ふ。左方の中央には勝利の女神月桂冠を手にして起ち、平和と融和の二神を從へ、平和の神は其手の果物を鳩の喙ばまんとする所を示し、融和の神は喇叭を携へ、前後には人道と公正とを示せり。猶天井の四圍には樫樹と橄欖樹の枝葉を繞らせり。全體希臘神話に基きしものなりと。

⑦ 学生生活

回顧片々　　廣川松五郎（談）

〔中略〕

中學を終へて田舎から出て來た計りの僕は――君達もそうだつたらうが――非常に美校入學に憧れてね、どうしても入つてやらうと頑張つた。其年の卒業製作展を見に行つたが不思議に印象に殘つたのは二つ程のステーンド・グラスの圖案で、それが何時までも感銘深く、實に印象的で今でも不思議に腦裡を離れないからおかしいね。それが富本憲吉君の卒業製作だ。

當時はアールヌーボーの全盛時代でよく外國雜誌等にあるあの